

令和6年度

# 小学生の 音楽



小学校用教科書

内容解説  
資料

# 改訂の3つのポイント

## 3つの「学び」からみた 新しい教科書

全ての子どもたちに音楽をする喜びと楽しさをとどけます



**学びが  
見える**

「何を学ぶか」  
「何ができるようになるか」を  
明確にします



**学びが  
つながる**

系統的な題材構成を主軸とした  
学習の積み重ねによって、  
着実に学ぶことができます



**楽しさを  
大切にした学び**

ワクワクするような  
紙面の工夫によって、  
子どもたちの心を育てます



### も く じ

#### 1.改訂のポイント

- POINT 1 学びが見える ..... 4
- POINT 2 学びがつながる ..... 6
- POINT 3 楽しさを大切にした学び ..... 8

#### 2.紙面の構成 ..... 10

#### 3.表紙 ..... 14

#### 4.口絵 ..... 16

#### 5.「学習マップ」と「ふり返りのページ」 ..... 17

#### 6.二次元コード ..... 18

#### 7.題材と系統一覧 ..... 20

#### 8.特集「題材構成」を理解するために ..... 22

#### 9.領域や分野ごとに見る内容の特徴

- ①歌唱 ..... 24
- ②器楽 ..... 26
- ③音楽づくり ..... 28
- ④鑑賞 ..... 30

#### 10.生活や社会と音楽との関わりについて

- ①生活や社会と音楽との関わり ..... 32
- ②SDGsにつながる視点 ..... 34
- ③道徳教育や人権教育に対する配慮 ..... 35

#### 11.「歌いつごう 日本の歌」と「英語の歌」 ..... 36

#### 12.「鑑賞資料」 ..... 37

#### 13.全ての人にとって 使いやすい教科書を目指して

- ①ユニバーサルデザイン(UD) ..... 38
- ②用紙・印刷・製本の工夫 ..... 39

#### 14.指導書・デジタル教科書等のご案内 ..... 40

#### [資料]

#### 検討の観点別に見た特色

- 教育基本法との関連 ..... 44
- 学習指導要領との関連 ..... 45
- 編集上の工夫や特色 ..... 46

令和6年度「小学生の音楽」に関する新規掲載曲や動画などの詳細は、教育芸術社ホームページからご覧いただけます。  
<https://www.kyogei.co.jp/textbook/es/es-r6>



# 1 改訂のポイント

POINT  
1

## 学びが見える ～「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にします

新しい教科書では、子どもたちが「何を学ぶか」「何ができるようになるか」をより具体的に分かりやすく示すために、学習活動を「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」の資質・能力に対応するように構成し、これらの学習活動を相互に関わらせることで、楽しみながら音楽の学びと向き合うことができるように編集しました。

### 思考力、判断力、表現力等

「考える」



気付いたことや学んだことをもとに、声や音の出し方などを試したり比べたりしながら、「このような音楽にしたい」という思いや考えをもったり、曲や演奏のよさについて考えながら聴いたりするための活動を示しています。

### 知識

「見つける」



曲想が歌詞や音色、リズムなどと、どのように関わっているか、楽器の音や響きが演奏の仕方によって、どのように変わるかに気付いたり、音やリズムなどの組み合わせが生み出すよさや面白さを見つめたりするための活動を示しています。

### 技能

「歌う」「演奏する」「つくる」



自分の思いを表せるように、声や楽器の音の出し方に気をつけ、互いに聴き合いながら歌ったり演奏したり、ねらいに合った音を自由に選んだりまとまりのある音楽をつくり出すための活動を示しています。

「どのように学ぶか」を示すことで、子どもたちの主体的な活動を引き出します。

## これまでの学習活動(活動文)の示し方の例

- ばんそうをよくきいて、アとイのかんじのちがいに気をつけながら、拍ののって歌いましょう。
- アとイのせんりつの音の上がり下がりがどのようになっているのか、音の高さに合わせて手を上下に動かしながら歌ってたしかめましょう。

令和2年度～「小学生の音楽3」から

① 子どもの「思いや意図をもつ」「気付く・理解する」「できる」をサポートします。

## 新しい教科書の学習活動の示し方の例

5 さかじじいさんへさかじじいさんへさかじじいさんへさかじじいさんへ

せんりつの音の上がり下がりに気をつけて歌いましょう。

とどけよう このゆめを

1 あさひが わらわーてる そらたか くかがやいて  
2 あさひが うたわーてる こえたか くひひかせて

キラキラ あざやかに ゆめをえがくよ  
キラキラ うつくしく ゆめをかなでる

よびかけ かぜのうた くもにのって  
よびかけ かぜのうた うみをこえて

とどけよ うこのゆめを そらのかなた  
とどけよ うこのゆめを はるかかなた

せんりつの音の上がり下がりやアとイのかんじに合う歌い方やえんそうのしかたを考えましょう。

声や音の出し方に気をつけて、歌ったりリコーダーをふいたりしましょう。

えんそうする

上の図形を指でたどってみていいね。

となりの音に聴くと、なめらかなかんじがするよ。

アとイのかんじのちがいに気をつけて、ばんそうもきいてみよう。

36 37

POINT 2

学びが つながる

～系統的な題材構成を主軸とした学習の積み重ねによって、着実に学ぶことができます

教育芸術社の教科書では、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるように、音楽を形づくっている要素を中心に、各教材を結び付けて題材が構成されています。また、それぞれの題材に適した教材を開発・精選して配置することで、題材内の学習を通して、気付いたり見つけたりした内容が相互に関連・発展していきます。

題材構成について

教科書の内容は、題材を中心に組み立てています。各教材は、「題材」という1つのテーマ(主題)の中で構成されているため、教材どうしを関連付けながら効果的に学習することができます。

① 題材のねらいに沿って、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材がバランスよく配置されているため、さまざまな学習を通して楽しみながら音楽の力を身に付けることができます。

学びが つながる 題材構成

例えば、3年生「7. いろいろな音のひびきに親しもう」では、「音色」を中心にしながら、各教材の特徴に合わせて、「旋律」「強弱」「音の重なり」「反復」「呼びかけとこたえ」などの音楽を形づくっている要素と関連させて学習を展開します。

【関連ページ】
●全学年の題材と系統一覧について → 本書 p.20・21
●題材構成に関する特集記事について → 本書 p.22・23

Table of contents for 3rd grade, page 6-7. It lists various music topics and their page numbers, such as 'Music with a heart', 'Rhythm', 'Trumpet', etc.

7 いろいろな音のひびきに親しもう

Table of contents for Unit 7:
● トランペットふきの休日 ..... 52
● トランペットのなかまを知ろう ..... 54
● よろこびの歌 ..... 54
● パフ ..... 56
● クロック ミュージック ..... 58

← 題材

← 教材群

3年生 p.52~59 「7. いろいろな音のひびきに親しもう」



鑑賞、器楽(歌唱)、音楽づくりの活動を通して、いろいろな楽器の音色や重なり合う音の響きに親しみます。

鑑賞

金管楽器の音色に注目して聴く

●聴くねらいを分かりやすく示しています(本書 p.30)。

●鑑賞の学習をサポートするための参考曲を、新たに加えました(本書 p.30)。

器楽(歌唱)

重なり合う音の響きに注目して合奏する

●合奏を通して、重なり合う音の響きを感じ取る活動を充実させ、次の学習につなげます。

音楽づくり

これまでの学習を生かして音楽をつくる

●音色や重なり合う音の響きに注目して音楽をつくる教材「クロックミュージック」を新たに加えました(本書 p.28)。

① 学びが着実に身に付き、広がり、深まります。

4年生「7. いろいろな音のひびきを楽しもう」の学習へ

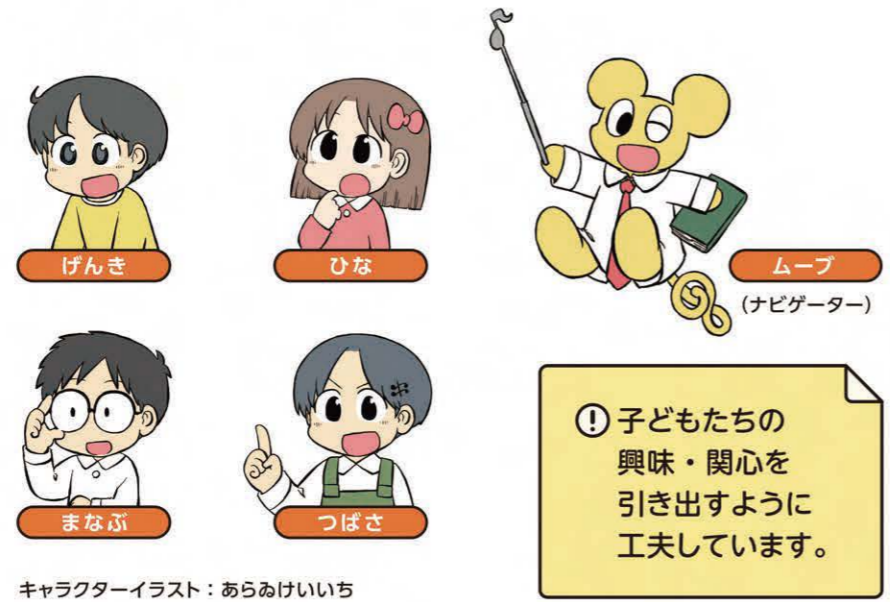
POINT 3

### 楽しさを大切に学び

～ワクワクするような紙面の工夫によって、子どもたちの心を育てます

新しい教科書の大きな特徴の一つとして、子どもたちが音楽をする喜びや楽しさを紙面から感じ取ることができるように、さまざまなデザインの工夫をしています。

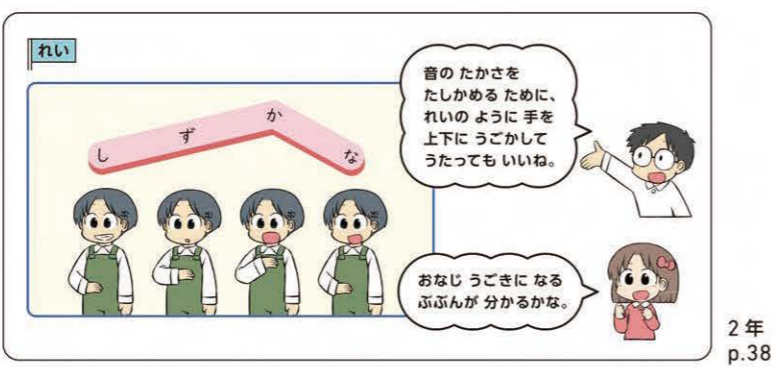
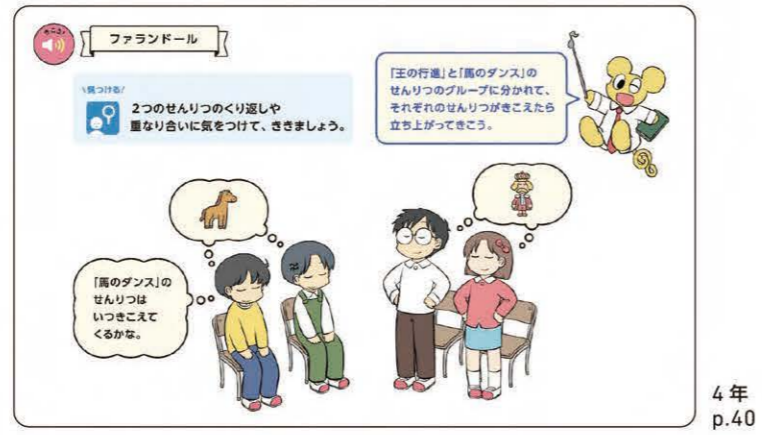
教科書に登場する主なキャラクター



教科書には主に4人の子どもとナビゲーターのキャラクターが登場します。それぞれの学習内容に応じてキャラクターの表情やしぐさを変えたり、活動している様子を表したりしています。  
※表紙に関する詳細は、本書p.14をご覧ください。

① 子どもたちの興味・関心を引き出すように工夫しています。

### キャラクターのさまざまな表情やしぐさ、活動の様子の例



### 紙面上の工夫

新しい教科書では、1つの題材ごとのまとまりを分かりやすくし、それぞれの学年の中で各題材が目立つように、キーカラーで色分けしました。また、学習をサポートする写真やイラストを精選して配置し、学習内容をより見やすくするために、白を基調とした紙面デザインにして、教科書全体の統一を図っています。

※ユニバーサルデザインに関する詳細は、本書 p.38・39 をご覧ください。

### 色分けのパターン (3年生)



① 分かりやすさ・見やすさに配慮し、楽しさが伝わるように工夫しています。

### 写真・イラストの例 (共通教材)



# 2 紙面の構成

教科書の紙面では、「何を目標に」「どのような活動を通して」「何を学ぶのか」が一目で分かるように示されているため、見通しをもって学習に取り組むことができます。

## 題材

各学年の目標を実現するために設定したねらいです。学習のまとまりを分かりやすくするため、各題材の始めのページに大きく示しています。

### 何を目標に

題材のねらいを具体的に示しています。

## 学習目標 (学習内容)

題材のねらいに迫るための各教材の学習内容を示しています。

### 何を学ぶのか

1つの題材の中で学習したことを振り返って、そのまとめやこれからの学習につなげていけるような内容を示しています。

※各題材の最後のページのみ

## 学習のまとめ

はくのまとまりを かんじとりながら、2びょうしや 3びょうしの音楽を うたったり きいたり することができたかな。

## 活動文 (学習活動)

学習活動を展開するための具体的な手立てを示しています。

### どのような活動を通して

「見つける」

音楽にあわせて、2びょうしの手あそびをしましょう。はくのまとまりを かんじとることができるかな。

「うたう」

はくにとって、手あそびをしながらうたいましょう。

うたうくみと手あそびをするくみに分かれてもいいね。

## 吹き出し (活動のヒント)

学習や工夫の観点のほか、子どもたちの気づきや思考を促したり、活動を発展させる際の示唆を与えたりするためのヒントを示しています。

## 写真やイラスト

活動の内容に関連した写真やイラストなどの資料によって、子どもたちの主体的な学習をサポートします。

## 【共通事項】に関する内容

教材を指導する際の目安となる、【共通事項】に示された音楽を形づくっている要素を示しています。

※ユニバーサルデザインに関する詳細は、本書 p.38・39 をご覧ください。

# 2

## はくのまとまりを かんじとりながら

うたったり きいたりして、はくのまとまりを かんじとることができるかな。



はくのまとまりを かんじとりながら うたいましょう。

### はしの上で

久野静夫 日本語詞/フランス民謡

♩=100~108

ア

はしの うえで たのしく おどろ

うたい ながら みんなで おどろ

1

おばさんが とおる おじさんも とおる

おうまが とおる こいぬも とおる

D.C. (はじめから)

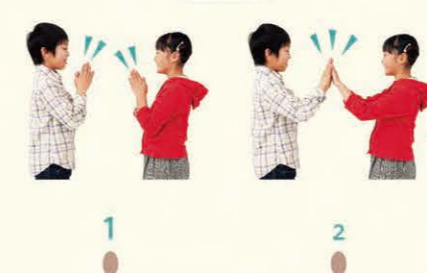
うたう じゅんぱん ア → イ → ア

## 2びょうしの手あそび

### 1人で



### 2人で



## 2びょうしで リズムあそび①

→ 本書 p.12

1人ずつ じゅんぱんに、タン タン のリズムを でうって リレーしましょう。

→ つづけて

1 2 1 2 1 2 1 2

リズム

はく

せんりつ

はく

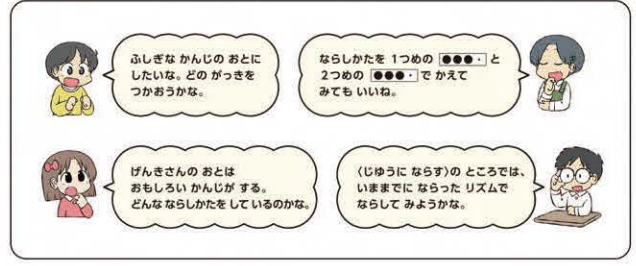
19



**対話的な学びを促す吹き出しの工夫**

子どもどうしの言語活動の充実を図り、学習のねらいの達成に向けて考えてほしいことや、発言の例を吹き出しで示しています。

1年 p.55



**関連事項の振り返り**

学習したことを振り返って確認することができます。  
※1年間の学習の見直しと振り返りに関する詳細は、本書p.17をご覧ください。

5年 p.15

5年 p.52

**その他** **チャレンジ** より進んだ学習活動を示しています。 **ステップアップ** 知識をより広げるための学習を示しています。



**常時活動のアイデア**

リズムの学習は「常時活動」として扱うことで、拍子感やリズム感を育成するだけでなく、友達と合わせて演奏するアンサンブルの技能を高めたり、音楽づくりに生かせる発想を得たりすることもできます。

1～4年生には発達段階や学習内容に応じた活動を掲載しました。鍵盤ハーモニカやリコーダーを活用した「常時活動」は、次の学習にもつながるウォーミングアップを兼ねています。

**常時活動の例(3年生)**

**リズムの「常時活動」の活用について**

気持ちや体をほぐして授業に入ることができるように、授業の最初に3分程度の時間を使って、少しずつ活動を積み重ねていきます。

- ① 毎回の授業の最初に、リズムマシンなどに合わせてリズム打ちを楽しむ。
- ② 慣れてきたら、次のステップに進む。
- ③ さらに慣れてきたら、速さや強弱を変えてみる。

**鍵盤ハーモニカを活用した階名当てあそび**

**リコーダーを活用したまねっこあそび**

# 3 表紙

3 表紙

テーマは「音楽との出会いと探検」

表紙には、「音楽の時間ではどんなことをするのか」と子どもたちがワクワクしながら教科書を手にしてほしいという願いを込めました。

また、教科書に出てくるキャラクターを登場させ、1年生は打楽器や「人形の夢と目覚め」、3年生は金管楽器や「ふじ山」など、各学年の授業で扱う内容を描くことで、子どもたちが音楽に興味・関心をもてるよう配慮しています。

表紙に描かれている子どもの人数が増えていくことで、子どもたちが協働しながら音楽を学んでいく様子や音楽への探究心の大切さを表しています。

各学年の表紙とテーマ 表紙イラスト：あらみけいいち

1年 初めての音楽の時間を楽しもう。



2年 いろいろな音や音楽を感じて楽しもう。



3年 音楽のよさや面白さを感じながら演奏しよう。



4年 デジタル端末を活用して音楽でつながろう。

5年 目や耳で感じながら音楽の美しさを味わおう。

6年 これまでの音楽体験を、みんなで分かち合おう。

我が国の郷土の文化を受け継ごうとする気持ちを養う

次世代の音楽文化の担い手となる子どもたちを育成するという観点からも、音楽科の教科書の果たす役割は大きいと考えています。

裏表紙には、子どもたちが地域の文化や芸能に興味・関心をもち、親しみを感じられるように、小学生が各地で郷土の祭りや芸能に取り組み、それらを受け継いでいる写真を掲載しています。

3 表紙

## 育もう！ 地域の文化 伝えよう！ 地域の芸能

1年	2年	3年
<p>はぐくもつ！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>にしただこ しちぶくじん いわてけんおんあそび <b>西館子ども七福神</b> (岩手県大船渡市)</p> <p>うたにあわせて、かみさまのすがたをした こどもたちがまいをまいます。</p>	<p>はぐくもつ！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>しらまづ おどり ちいぎけんおんあそび <b>白間津さらさら踊</b> (千葉県南房総市)</p> <p>「白間津のオオマチ」というおまつりで、 子どもたちがうたにあわせておどります。</p>	<p>はぐくもつ！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>りゅうきゆうこくまつ だいに おきなわけん <b>琉球國祭り太鼓</b> (沖縄県沖縄市)</p> <p>沖縄につたわる「エイサー」というおどりを もとにしてつくられた「そうさくエイサー」です。</p>
<p>育もう！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>いわみ かくら しらね せいぶ <b>石見神楽</b> (島根県西部)</p> <p>日本の神話や昔ばなしを題材にしたえんもくを、 たいこ、かね、笛による囃子に合わせてまいます。</p>	<p>育もう！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>たいへいおどり あやかし ちいぎけん <b>泰平踊</b> (宮崎県日南市)</p> <p>古くからこの地域に伝わるおどりで。 三味線、尺八、太鼓で伴奏する歌に合わせておどります。</p>	<p>育もう！ つたえよう！ ちいぎのぶんか ちいぎのげいのう</p> <p>こうづ ぶんらく おきなわ <b>高津子ども文楽</b> (大阪府大阪市)</p> <p>文楽では、1体の人形を3人で分担して動かします。 人形だけでなく、太夫(語り手)や三味線も、 小学生が担当します。</p>
4年	5年	6年



# 4 □絵

3年生以上の教科書p.2・3では、子どもたちが演奏する際に大切なことを考えたり、音楽と社会、音楽そのものについての考えを広げ深めるきっかけとなったりするように、音楽をさまざまな視点から捉える内容を掲載しています。

4

□絵

3年

## 学習内容(リコーダー)との関連



川端りささん(リコーダー奏者)  
聞き手：藤原道山さん(尺八演奏家)

4年

## 学習内容(歌唱)との関連



田中彩子さん(ソプラノ歌手)  
聞き手：藤原道山さん(尺八演奏家)

5年

## 音楽と社会との関わり → 本書 p.32



新井鷗子さん(クラシックコンサート構成作家)

6年

## 音楽への探究心

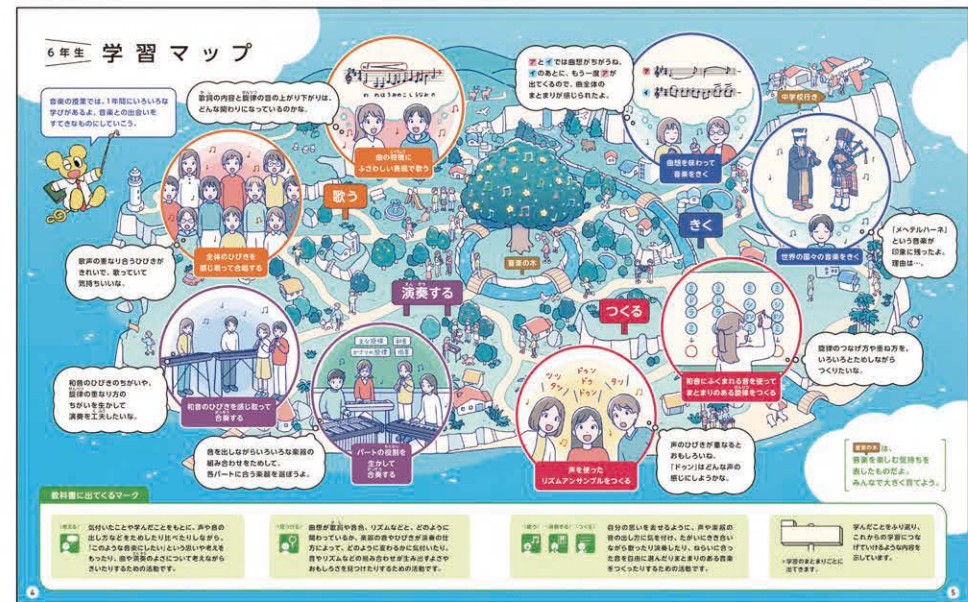


山田和樹さん(指揮者)

# 5 「学習マップ」と「ふり返りのページ」

年間を通した学習の見通しをもてるように、各学年の巻頭にその概要を「学習マップ」として示しました。また、学習したことをいつでも確認できるように、巻末には「ふり返りのページ」を設けました。

## 巻頭「学習マップ」



6年 p.4・5

## 巻末「ふり返りのページ」



6年 p.82・83

5

「学習マップ」と「ふり返りのページ」

1年間の  
見通しをもつ

学年の始めに、この1年間で学習する内容について、大まかなイメージをもつことができます。

学んだことを  
振り返る

学期末や学年末、題材のまとめごとに、学習したことを振り返って確認したり関連付けたりすることができます。

# 6 二次元コード

ICTを  
活用した学習

教科書の紙面右上の二次元コードを読み取ることで、タブレット端末で学習をサポートするコンテンツ(ムーブの部屋)にアクセスすることができます。

子ども一人一人の端末で操作できるため、「個別最適な学び」をサポートします。



6

二次元コード

## ムーブの部屋

紙面には、 で示されています。

※ここに掲載されているムーブの部屋の画面は、開発中のものです。デザインや内容は発行に向け改良いたします。

## 音楽を聴くことができます

ここでは、参考となる音源を聴くことができます。授業以外の時間でも、曲の雰囲気をつかむことに役立ちます。

春の様子を思い浮かべて、歌い方をくふうしましょう。

春の小川

文部省唱歌  
高野聖之 作詞  
岡野貞一 作曲

1-2は ーの おがわは さらさら いくよ

きーしの すみれや れんげの はなに  
えーびや めだかや こぶなの われに

すーが た やさしく いろうつ くしく  
きーう も いち にち なたで およぎ

さーけよ さけよと ささやき ながら  
あーそべ あそべと ささやき ながら

10

3年 p.10



※歌唱曲は、ピアノの音で再生されます。

きいている人に、音楽のもり上がりが伝わるように演奏しましょう。

威風堂々

エルガー 作曲 長村新太郎 編曲

1. のパートを演奏したり、「威風堂々 第1番」の1.の部分に注目してきいたりして、旋律の特徴をつかみましょう。

2. 音楽のもり上りを意識して、強弱記号を生かした演奏の仕方を工夫しましょう。

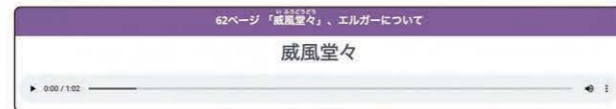
威風堂々 第1番

エルガー 作曲

イギリスの作曲家エルガーは、「威風堂々」という題名の付いた行進曲を、全部で4曲つくりました。中でも、この第1番が最も親しまれています。上の合奏曲は、「威風堂々 第1番」の1.の部分をもとにしたものです。

62

5年 p.62

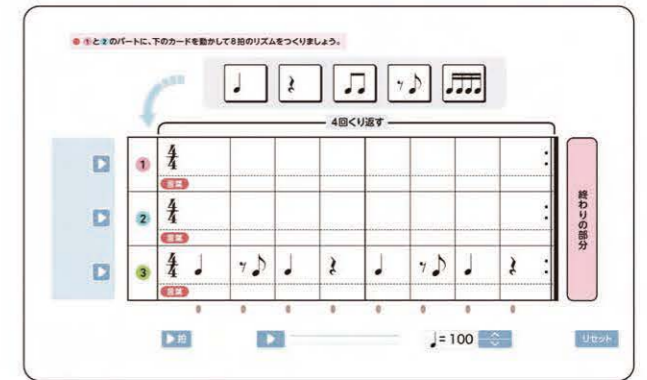
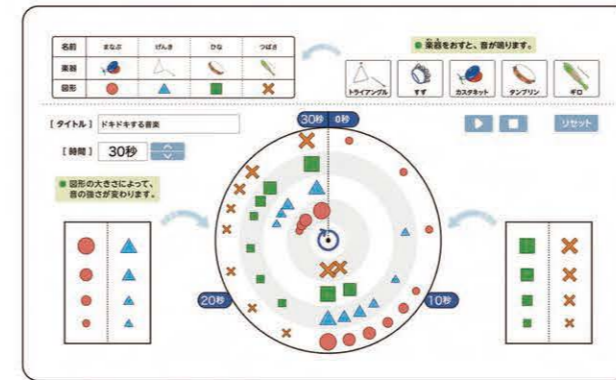


## 資料を見ることができます

ここでは、音楽づくりの教材や、楽器を紹介する動画、図形楽譜の再生などさまざまな資料を活用できます。

## 音楽づくりの教材

インタラクティブなコンテンツを使用でき、音楽づくりの学習がスムーズになるようサポートします。



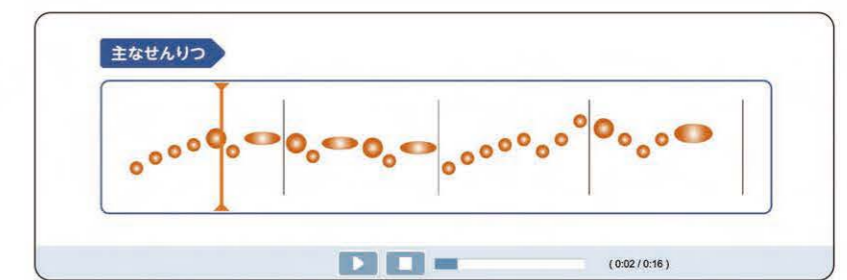
## 楽器について

持ち方や鳴らし方などの楽器を紹介する動画を掲載しています。



## 鑑賞曲について

紙面上の楽譜や図形楽譜に対応する音楽を聴くことができます。



6

二次元コード

# 7 題材と系統一覽

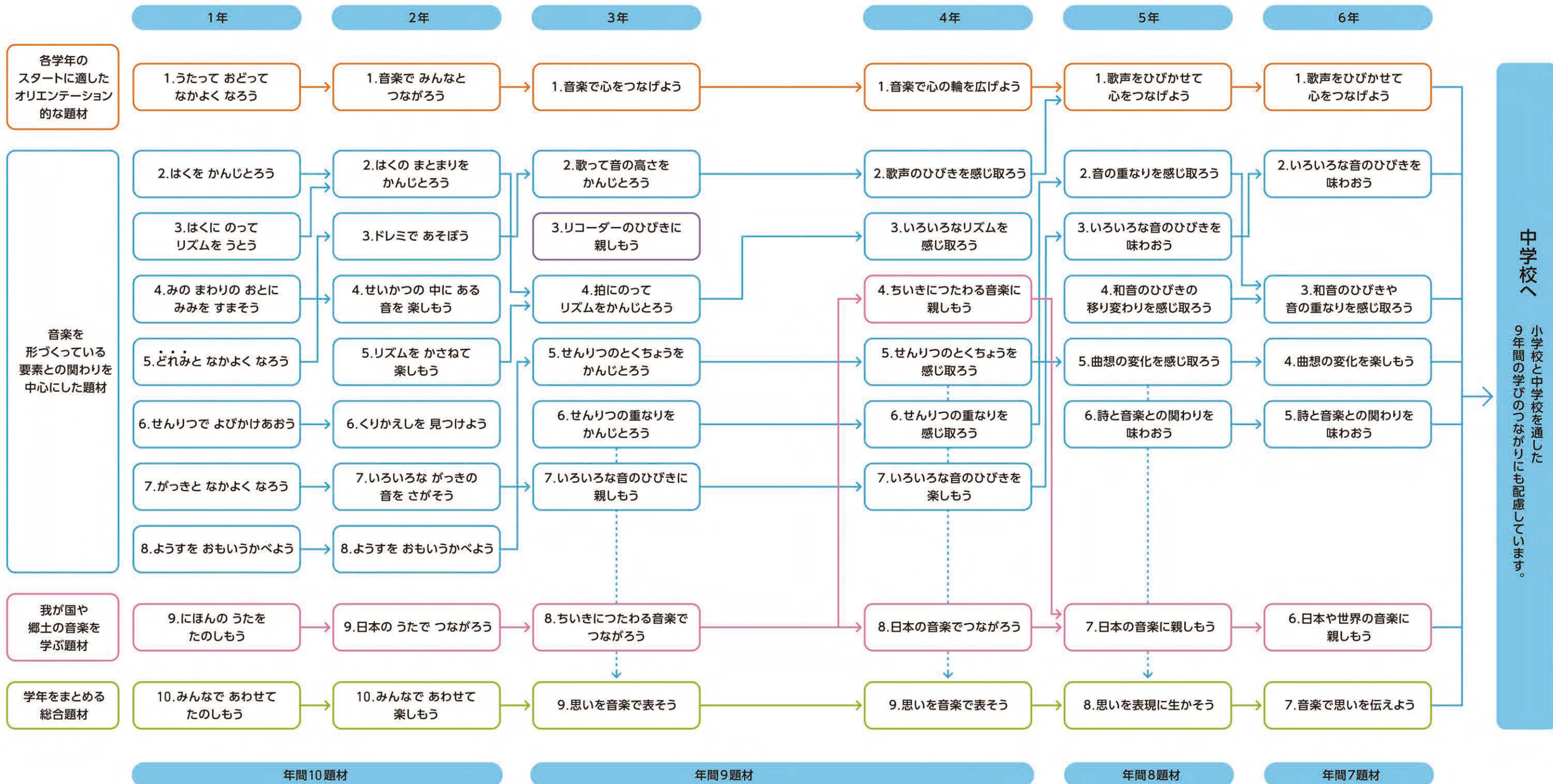
題材は、学年内での学習のバランスを考慮して構成されており、学年間の関連も下図のように系統立ててあります。そのため、子どもたちの発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら学習を積み重ねていくことができます。

① 系統的な題材構成により、6年間の学びが積み重なっていきます。

各学年の年間指導計画は、教育芸術社ホームページから閲覧・ダウンロードすることができます。



<https://www.kyogei.co.jp/textbook/es/es-r6/document>



中学校へ

小学校と中学校を通じた9年間の学びのつながりにも配慮しています。

7 題材と系統一覽

7 題材と系統一覽

# 8 特集 「題材構成」を理解するために

教科書の全体像を捉えるうえで要となる「題材構成」について座談会を行い、3人の先生方にお話しいただきました。

なぜ「題材構成」を用いて教科書がつけられているのか、あらためてそのよさや大切さに気付き、より深く理解するために、さまざまな視点から「題材構成」をひもといていきます。



## 音楽に関する汎用的な力を育てる題材構成

**A:** (教育芸術社の)教科書がどのような構成になっているのか、その大きな特徴である「題材」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

**B:** 「1曲ずつ指導する」という考え方とは別の「学習指導の内容を構成するまとまり=主題」を指す「題材」ですね。

**A:** 音楽科以外の教科では「単元」という考え方があって、それぞれの学習が順序立てて進められていきますが、音楽科の学習では歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の内容がそれぞれ関連し合っていますね。

**B:** 歌唱の授業で、例えば「旋律」に着目した場合、次に学習する器楽や鑑賞、音楽づくりの教材ではどのように「旋律」が関わっているかという視点でも学習できるので、1つの知識を得たことにより、他にも応用できる汎用的な力を身に付けることができます。このような主題による題材構成は、音楽科の学習にとって非常に重要だと思います。

**C:** 「1曲ずつ指導する」と聞くと、私は新任の頃にひたすら教材、教材、教材と1曲ずつ教えていたことを思い出します。でもそれは、栄養の偏りに配慮せず、子どもが好きな

献立を毎日考えるような感じがして、「教材を教える」のに行き詰まることも多く、「よく分からないけれど何か足りない」という空虚感をいつも抱えていました。そこから抜け出せたのは、題材構成というものをしっかり捉え直したことが大きいです。いろいろな学習内容が関連し合って、充実した学びが生まれるのだと実感しました。

## 教材単位ではなく 題材全体の中で評価を考える

**A:** 題材構成の例として、4年生の教科書に「旋律の重なりを感じ取ろう」があります。このテーマをもとに歌唱、鑑賞、器楽、さらにまた歌唱の順で教材が配置されています。さまざまな学習活動を通して、「旋律」や「音の重なり」について学び、学んだことを生かしていけるような構成になっている。この題材の最後の教材「もみじ」では、子どもたちが主体的、対話的に学習を進める活動例が示されていますね。

**B:** さまざまな学習内容が関連し合っているのは、評価にとっても利点がありますね。1つの教材で全てを評価するのではなく、この教材では「知識」、他の教材では「技能」といったように、何が身に付いたかという評価を題材全体の中で考えることができる。

**C:** そうですね。例えば、歌うことが得意な子どもを歌唱の「技能」だけで評価しないということですね。

**A:** そうすると、教科書の目次を見て「1つの題材の中にある全ての教材を教えなくてはいけない」と思われている先生がいらっしゃるかもしれません。



「子どもたちに何を身に付けてほしいか」と考えると、音楽に関する汎用的な力を育てることで学習効果につながって、題材構成を指導に生かす意義がみえてくると思います。

**B:** 1つの題材の中から幾つか教材を選択することがあっていいと思います。中学年は確かに学ぶことが多くあって、内容は厚くなっていますが、いちばん伸びる時期だからだと思います。このようなことから、題材全体の中で評価を考えていくことの大切さが分かるのではないのでしょうか。

**A:** そうですね。

**C:** まさに「題材構成」の強みですね。

**B:** 逆に、低学年では、教材が多く掲載されているのに「時間が余ってしまう」という話も聞いたことがあります。

**C:** 低学年では、教材といっても18秒ぐらいで終わってしまうものもあり、これを45分学習するのも…といった難しさは確かにあると思います。だからこそ「題材構成」だと学習の幅を広げることができて、いいんですね。

**B:** それに低学年では、1つの教材を使ってリズム遊びや旋律遊びなどのいろいろな音楽活動を行えるので、もっと浸透していくといいと思っています。

## 教材どうしを関連させながら、 学びのつながりや積み重ねが得られる題材構成

**C:** 一方、「音楽づくり」を単体の教材と捉える傾向がみられるのではないのでしょうか。また、まとめの段階になると上手に演奏しようとして、音楽づくりなのにまるで器楽の授業のようだと感じることもあります。

**A:** でも、「音楽づくり」は題材とのつながりがいちばんあると思います。例えば、6年生の教科書にある「いろいろな和音の響きを感じ取ろう」の中にある「和音の音で旋律づくり」を学習する場合、3・4年の「旋律の特徴を感じ取ろう」での学習が生かされるし、5年の「音階の音で旋律づくり」や和音を扱う学習経験もあります。さらに、この学習は中学校の旋律の創作にもつながっていくので、学びのつながりや積み重ねができる題材構成は重要だと思います。

**B:** 学年を超えて「学びが繋がっていく」という題材と題材との関連も重要ですね。これまでの学年で何を学んだのか



各題材の中で歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のそれぞれが関連し合っていることを意識すると、評価を重点化することができますよね。

そうなんです。記録に残そうとすると負担ですが、ある教材の鑑賞では「知識」を、同じ題材の他の教材では「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を見取るといった評価の重み付けができるのではないかと思います。



を分かっているのはとても大事なことで、前の学年のことを振り返るのが難しくれば、教科書の中の「おもしろい」や「歌声」、「ふり返りのページ」といった特集的な扱いを意識して活用するのも効果があると思います。

**C:** 私は低学年を教えています。題材を意識した授業をするようになってから、子どもたちが学習した言葉をきちんと使っているのを感じます。2年生だと「フレーズ」など、音楽の内容を理解したうえでイメージを膨らませて発言しており、こうした学習は学年が上がるにつれとても生きてくると思います。さらに言うと、これまで学習した内容が次につながる題材構成は、さまざまな子どもたちがいる中で授業に必要な不可欠だなと感じます。

**B:** そうですね。例えば、歌うことに苦手意識をもっている子どもでも、歌唱の学習で気付いたことを次の得意な器楽の学習に生かすことができるし、鑑賞や音楽づくりの学習から身に付けた内容を通して、これまで苦手だと思っていたことに興味・関心をもつ可能性もあります。子どもの個性を尊重した個別最適な学びのあり方も大事ですね。

## まとめ～座談会を振り返って

**A:** 今回のお話で、「題材構成」のよさは、学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく効果にあるとあらためて感じました。

**B:** 「つながり」は系統性ともいえますよね。教科書は6年間のつながりで構成されていて、題材は学年を重ねるごとに、それまでの学習をもとにして総合的な題材になるようにつくられています。

**C:** 時には教師の想像を超えて、これまでの学習を生かした内容の発言を子どもたちから聞けるのは、題材構成を用いているからこそと言えます。習得したことを関連付けて活用する姿から子どもたちの成長がみえてくるのも、題材構成のよさだと思いました。

# 9 領域や分野ごとに見る内容の特徴

## 1 歌唱

～「自分たちの思いや意図を表現する力を育てる」観点から

子どもたちが、「こう歌いたい」という気持ちになったとき、その気持ちを表すために必要な力を無理なく楽しみながら身に付けられるように工夫しました。

充実した歌唱教材

オリジナル曲のほか、さまざまなジャンルの中から教材性が高く、魅力的な曲を精選しています。また、発達段階に合わせた歌詞の内容や、子どもたちの声帯に無理な負担がかからないよう、適切な音域を設定しています。

「歌声ルーム」

曲想にふさわしい声を出すにはどうしたらよいか、体や息の使い方などを示すコラムを掲載しました。表現と技能が一体化するように、その曲に必要な技能を示しています。

「ペガサス」  
未来へと力強く導く歌詞とダイナミックな曲想をもつ二部合唱曲

作詞：覚和歌子さん  
作曲：三宅悠太さん

6年 p.10・11

6年生の学習開始にふさわしいオリジナルの新曲を掲載しました。

低学年 口の開け方、姿勢など

うたごえルーム

- うたうしせい  
かまく上に  
ひっぱられる かんじで  
あたまは たかく、  
かたは らくにして、  
むねを ひろげるように  
どうとうと 立ちます。
- いきの すいかた  
おなかや せなかなど、  
体ぜんたいが ふくらんで  
いくような かんじで  
いきが 体に  
入ってくるのを  
かんじましょう。

2年 p.21 「ドレミのうた」

中学年 体や息の使い方

歌声ルーム 1

あくびをするような感じで、  
首やのどをリラックスさせ  
ましょう。おなかから  
顔のてっぺんに向かって  
まっすぐ息を送るイメージで  
歌いましょう。

4年 p.15 「風のメロディー」

高学年 斉唱や合唱、変声期の歌い方の工夫など

歌声ルーム 2 合唱のひびき

正しい音の高さで歌うことに加えて、他のパートとの音量のバランスに気を付けながら、音色を合わせるように声を重ねて歌うと、ゆたかな合唱のひびきになります。

5年 p.36 「こげよ マイケル」

実践的な内容で系統立てられています。

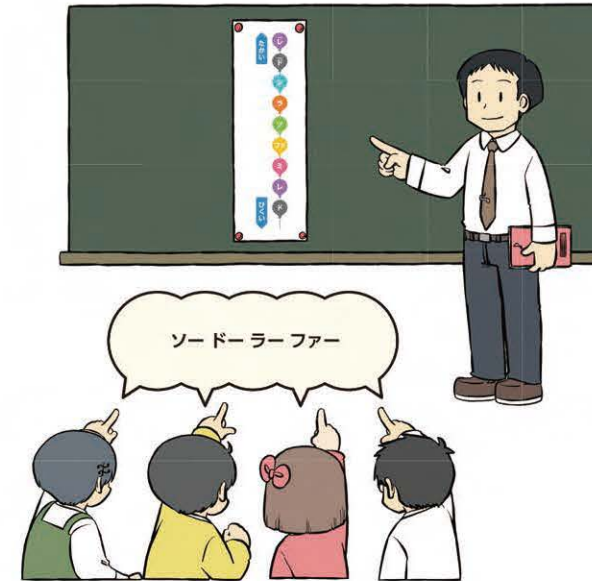
音程感覚を養う

旋律の階名唱(ドレミで歌う活動)を繰り返し行い、音程感覚を育てます。そのときに、ドからレまで書かれた「ドレミ風船」のイラストを指しながら音の高さの違いをイメージして歌います。

合唱の技能を養う

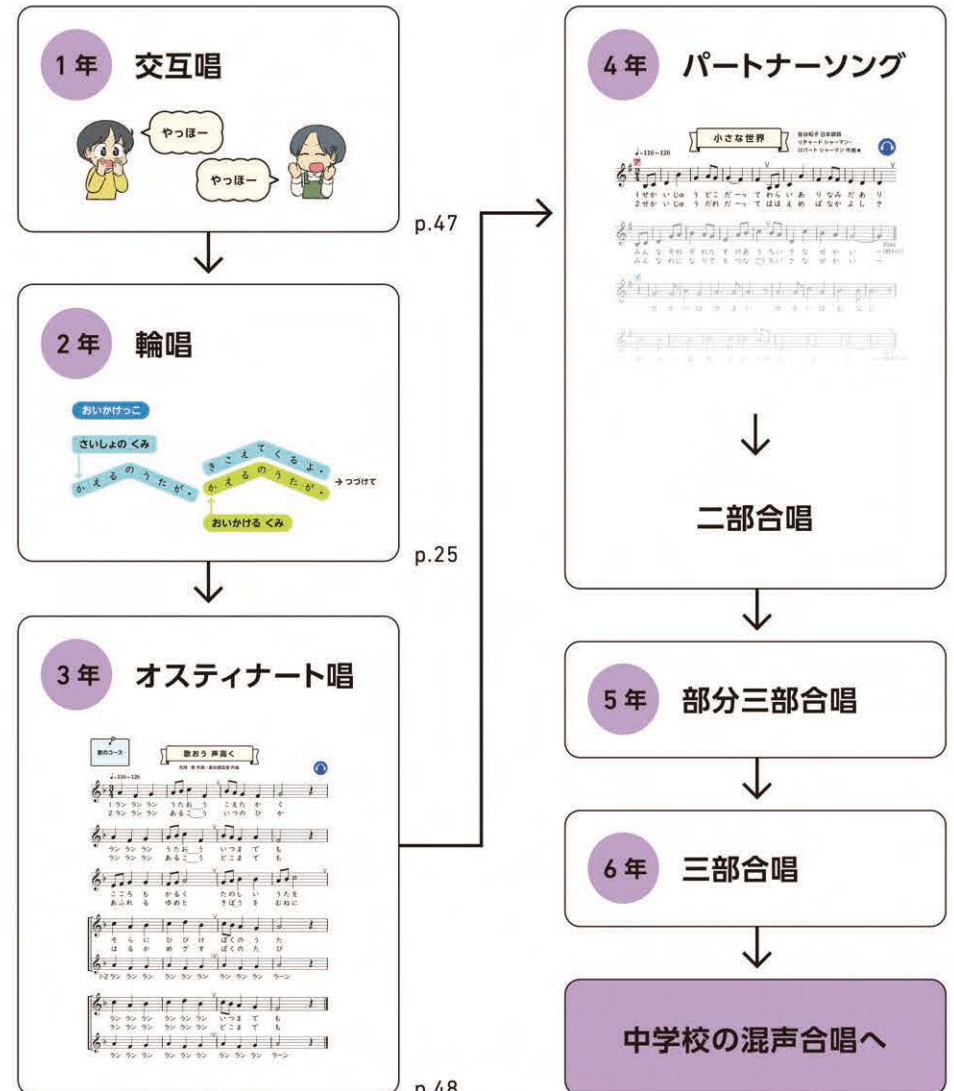
子どもたちが声を重ねる楽しさや美しさを感じ取りながら、声を合わせて歌う力を身に付けられるように、段階を踏んで無理なく学習できる構成にしています。

スモールステップの積み重ねで自信が付ききます。



目と体で音の高さの違いを実感します。

2年 p.11



9 領域や分野ごとに見る内容の特徴

9 領域や分野ごとに見る内容の特徴

### 器楽 ～「主体的で意欲的な学習を引き出す」観点から

子どもたちにとって、楽器との出会いが大切なものとなるように、導入ページを設置するなど、楽器の取り上げ方を工夫しました。また、演奏家によるワンポイントアドバイスや、子どもたちの意欲を引き出す合奏教材も掲載し、子どもたちが主体的に学習を進められるように配慮しています。

楽しく学べる  
導入ページ

楽器の写真を大きく掲載したり、楽器の一部を使って遊ぶ活動を取り入れたりして、楽器への関心が高まるように工夫しています。



3年 p.20・21



1年 p.34・35

遊びを通して楽器の特性を知り、音色に親しみます。

鍵盤楽器・  
リコーダーの  
ステップ

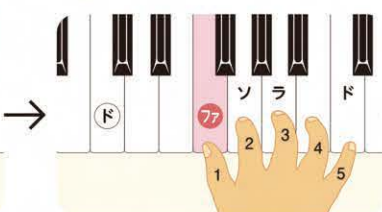
学年ごとに段階を踏みながら、無理なく学習できるような構成にしています。また適宜、常時活動を取り入れながら、楽しく繰り返し行えるように工夫しています(本書 p.12)。

#### 鍵盤楽器のステップ

1年 5指まで



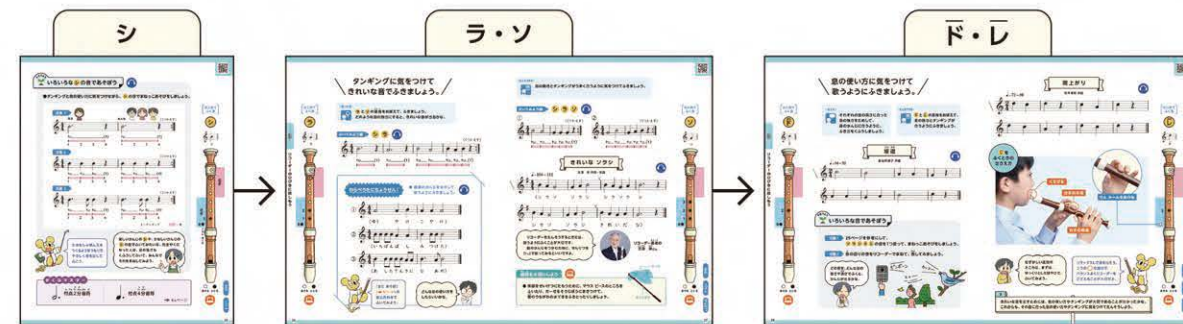
2年 5指でポジション移動



3年 指くぐり・指またぎ



#### リコーダーのステップ



3年 p.25~29

3年 低音(ファ・ミ・レ・ド) 4年 サミング(ミ・ファ・ソ) 高学年 派生音(#ソ・#ファ・bシ・#ド)

和楽器に  
親しむ

和楽器の学習では箏などを取り上げ、音色に親しみながら演奏を楽しみます。また、これまでに学習した歌唱教材や鑑賞教材と関連させながら学習できるようにしています。

演奏家による  
ワンポイントアドバイス

学習意欲を  
引き出す  
合奏教材



4年 p.10

4年 p.58



4年 p.60・61

手拍子で演奏することができる「クラッピング ファンタジー」(4,5年)や、音楽会などで長年親しまれている「アフリカン シンフォニー」(5年)、東京2020オリンピックの閉会式でも演奏された「Paradise Has No Border」(6年・新掲載)など、さまざまな合奏曲を取り上げています。

### 音楽づくり ～「学びを生かして創造性を豊かにする」観点から

学習してきたことを生かして、思いや意図をもってついたり、グループ学習を通して友達と協働しながら音楽をつくりたりすることにより、子どもたちの発想力や音を音楽にしていく力を培えるように配慮しました。

**工夫すべきポイントが分かりやすい**

子どもたちが「何を」「どのように」工夫すればよいのかという見通しをもてるように、作品例やさまざまなアイデアを例示し、思考、判断しながら、主体的・対話的な学習に取り組めるようにしています。

学習の手順が丁寧に示されています。

えから おもいうかべた おとをくみあわせて、おんがくをつくりましょう。

えから うまれる おんがく

1. ひだりの えをみて、がっきのならしかたをためしながら、えにあうおとをさがして、ともだちとしようかいしあいましょう。
2. 3にんのくみになり、みつたおとをひとり3かいずつならして、おんがくをつくりましょう。
3. つくったおんがくを はっぴょうし、みんなでききあひましょう。

学習したことを振り返って音楽づくりへに活用します。

1年 p.56・57

思考、判断を促します。

時間のながれに合わせて、音楽をつくりましょう。

クロック ミュージック

1. 楽器をそろえて、ひびきのなかで楽器のちがいをたしあわせながら、歌いつくります。
2. 先生の手で楽器をそろえる間に、歌に入った楽器をそろえます。
3. 先生の手で楽器をそろえる間に、歌に入った楽器をそろえます。

3年 p.58・59

音や言葉によるコミュニケーションを取りながら友達と作品をつくります。

学びをつなげて

題材内のほかの教材と関連させることにより、子どもたちの学びがつながるようにしています。また、1年生から6年生を通して段階的に「音楽づくり」を経験し、中学校の「創作」へとつなげます。

鑑賞、器楽との関連  
鑑賞：「こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」より」  
器楽：「さくら さくら」

「さくら さくら」の音階を使って

日本の音階のよさを感じ取りながら、せんりつをつくりましょう。

「さくら さくら」の音階でせんりつづくり

1. 下の音階の感じ取りを思い出しながら、音の上り下りのなかから自分の好きな音を選んで、2小節分のせんりつをつくりましょう。
2. 2小節ごとに音の上り下りを考えて、4小節分のせんりつをつくりましょう。
3. 4小節ごとに音の上り下りを考えて、8小節分のせんりつをつくりましょう。

4年 p.62・63

器楽との関連  
器楽：「雨のうた」

「雨のうた」の和音を使って

旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくりましょう。

「雨のうた」の和音で旋律づくり

1. 各々の音階と和音を使い、ひびきのなかで旋律をつくりましょう。
2. 2小節ごとに音の上り下りを考えて、4小節分の旋律をつくりましょう。
3. 4小節ごとに音の上り下りを考えて、8小節分の旋律をつくりましょう。

6年 p.30・31

音の上り下りの中から音の動き方を選びましょう。

同じ音をよく鳴らす音の中から音を選んで、自分の小節の旋律をつくりましょう。

自分の旋律

音の上り下り  
旋律をつくるリズム  
和音にふくまれる音  
導入の音

**二次元コードの活用**  
二次元コード先の資料に、音楽づくりをサポートするコンテンツがあります。子どもたちはこれらを使って試行錯誤しながら、よりよい音楽をつくることができます(本書 p.19)。

音楽づくりの系統性は、教育芸術社ホームページから閲覧・ダウンロードすることができます。  
<https://www.kyogei.co.jp/textbook/es/es-r6/document>



### 鑑賞 ~「音楽の楽しさや美しさに気づき、感動する心を育てる」観点から

聴くねらいを分かりやすく示し、聴き取り、感じ取ったことを友達と共有しやすくしました。また、意見の交流を通して、より深く音楽を理解できるように配慮しました。さらに、郷土に伝わる音楽をはじめとして、多様な鑑賞教材を取り上げ、子どもたちが音楽文化の多様性を理解できるように配慮しました。

聴くねらいが  
分かりやすい

学習目標や活動文に加えて、楽器のイラストや写真などを示し、視覚からも鑑賞のねらいを捉えやすくしています。

#### 金管楽器



3年 p.52・53

トランペットの  
音色に注目して  
聴きます。



4つの金管楽器の  
音色を聴き比べ、  
その違いを感じ取ります。



3年 p.54・55

千住 明さんによる  
アレンジ書き下ろし



千住 明さん

#### 祭り囃子

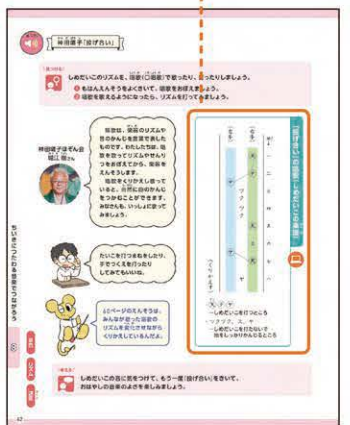
楽器の音色に  
注目して聴き、  
祭り囃子に親しみます。



お囃子の締太鼓のリズムを口唱歌で  
歌ったり、打ったりして、祭り囃子のよさを  
より感じることができるよう工夫しています。



3年 p.60・61



3年 p.62

多様性を  
理解する

いろいろな楽器や、我が国及び諸外国の音楽を鑑賞することができるよう鑑賞教材を精選しました。その際、それぞれの音楽のよさや違いを捉えやすくするために、比較鑑賞の学習を適宜設けています。

#### 日本の楽器の音楽



4年 p.58・59

1年生の導入

小学校に入学したばかりの子どもたちが、安心して楽しく音楽の学習をスタートできるように鑑賞教材を新たに開発しました。曲想の異なる3パターンの音楽で構成されています。

- 1. 「あっちこっちうーく」 2. 「ずむずむずん」 3. 「さんぱれーど」

宮川 彬良さんによる  
書き下ろし



宮川 彬良さん

聴こえてくる  
音楽に合わせて  
体を動かします。



1年 p.6・7

#### 世界の合奏の音楽



6年 p.48・49

#### 日本と世界の踊りの音楽



2年 p.12・13



# 10 生活や社会と音楽との関わりについて

## 1 生活や社会と音楽との関わり

身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習に取り入れたり、音や音楽に関わるコラムなどを設けたりして、子どもたちが音や音楽に対してもった興味・関心と、音楽科の学習がつながるように工夫することで、音楽科で学んだことを自分の人生や社会に生かすことができるようにしました。

### 身の回りの音の面白さに気付く

身の回りにあるいろいろな音を見つけ、それらの音を使って即興的に音遊びをする活動を通して、音そのものの面白さにも気付くことができるように学習の手立てを示しました。

1年生では、学校の中で聞こえる音を通して

2年生では、家や学校の周りで聞こえる鳴き声を通して

4 身の回りの音の面白さに気付く

みつけたおとでよびかけあひましよう。

おとをさがしてあそぼう。

1 音をすまいて、かこのなかで聞こえるおとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

2 いろいろな音をきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

3 おとをきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

4 おとをきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

1年 p.32・33

4 身の回りの音の面白さに気付く

みのまわりの音をきいて、おとをさがそう。

おとをきいて、おとをさがそう。

1 いろいろな音をきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

2 いろいろな音をきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

3 おとをきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

4 おとをきいて、おとをさがそう。おとがなにかとがさかしてきますか。

2年 p.28・29

### 調べ学習から地域の音楽への興味・関心を育てる

社会科や総合的な学習の時間との連携を図りやすいように、調べる際の観点や方法を示しました。

4 調べ学習から地域の音楽への興味・関心を育てる

チャレンジ ちいきにつたわるおどりの音楽を調べよう

1 ちいきにつたわる音楽を調べて、そのとくをきいてみましょう。

2 ちいきにつたわる音楽を調べて、そのとくをきいてみましょう。

3 ちいきにつたわる音楽を調べて、そのとくをきいてみましょう。

4 ちいきにつたわる音楽を調べて、そのとくをきいてみましょう。

各題材内の教材と関連させて、3年生では祭り囃子、4年生では郷土芸能、5年生では日本の民謡を掲載

4年 p.28・29

### 音楽に関わる権利を理解する

作品 (= 著作物) を尊重することの大切さを考えるきっかけとなるように、作品をつくった人に与えられる権利 (= 著作権) についてのコラムを設けました。

前の学習でつくった「ボイスアンサンブル」を手掛かりに考えます。

【特集】著作権について知ろう

22ページでは、声を借りたリズムアンサンブルの音楽をつくりましたね。音楽には、自分がつくったもの以外にも、友達がつくったもの、他人がつくったものもたくさんあります。これらの音楽について考えてみましょう。

1 自分で考え、工夫してつくった音楽は、自分のこころを表現したいという気持ちでつくります。「著作権」といえるのです。

2 わたしだけが、音楽の中でつくったもの「著作権」といえるのかな。 もちろん、そうですよ。

3 自分がつくった音楽は、自分で楽しむだけでなく、友達や家族に聴かせることもできます。だから、友達や家族に聴かせる時も、自分がつくった音楽の「著作権」を守ることが大切です。

4 みんなが毎日生活の中で使っている音楽やイラスト、動画やアニメなども、それらの「作品」のことを「著作物」といいます。その著作物をつくった人、法律によって権利が認められています。それを「著作権」といいます。

5 「著作権」って何、聞いたことある！ 大人の世界の話かと聞いていたけど、実は身近なものだったんだね。

6 「著作権」の権利の一つは、「複製権」といいます。複製権とは、著作物を複製することです。複製とは、コピーすることです。インターネットで著作物を転載すること、有料のコンピュータで複製することなど。

7 「著作権」をつくらずに、「著作物」の権利がなくなると、みんなが自由に「著作物」を使えるようになります。でも、みんなが自由に「著作物」を使えるようになったら、みんなが「著作物」をつくらなくなってしまうかもしれません。みんなが「著作物」をつくらなくなると、みんなが「著作物」を楽しむことができません。

8 「著作権」を守ることが大切です。みんなが「著作物」をつくらなくなると、みんなが「著作物」を楽しむことができません。

6年 p.24・25

### 音楽と生活や社会との関わりを見つめ直す

歌ったり演奏したりする活動が、生活や社会の中でどのような役割を果たしているのかを考えるきっかけとなるコラムや写真を設けました。

音楽を演奏している人と、それを聴いている観客が一体となって盛り上がるステージの様子を紹介しています。

【特集】音楽のもっている力や役割

音楽は、さいて演奏したりして楽しむことができますが、それだけではなく、いろいろな力をもっており、わたしたちの生活や社会の中で、さまざまな役割を果たしています。下の図を参考に、あなたにとっての音楽はどんな存在なのかを考えてみましょう。

1 一体感を味わわせる力  
コンサートやライブの会場では、ステージ上の演奏者も、それを見ている観客も、同じ感動や興奮を共有しながら、いっしょに音楽を楽しんでいます。音楽に合わせて体を動かしたり拍手をしたり、いっしょに歌ったりすることで、多くの人々が音楽を通して一体感を味わうことができます。

2 人と人をつなぐ力  
遠く離れたところから、ウィンドインstrumentsの音を聴くためにみんなが集まったり、音楽の力を借りて、インターネットやコンピュータなどを活用して、音楽の動画を共有したり、ネット上で音楽を聴いたり、音楽を聴いたりすることで、みんなが音楽を通してつながることができます。

3 大切なメッセージを伝える力  
1995年に発生した阪神・淡路大震災という大きな災害があり、そのことがきっかけで生まれた「あまのこ」(あまのこ)という曲があります。この曲は、被災された人々を励ましたり、復興への思いを伝えるために、今も大切に歌われています。「あまのこ」(あまのこ)という曲は、被災された人々を励ましたり、復興への思いを伝えるために、今も大切に歌われています。

4 さまざまな理由で集まることができない中、インターネットやコンピュータなどを活用して、一緒に演奏している様子を紹介しています。

5 大きな災害がきっかけで生まれた曲が、被災された人々を勇気付けていることを紹介しています。

6年 p.43

10 生活や社会と音楽との関わりについて

10 生活や社会と音楽との関わりについて

### SDGsにつながる視点

今日的な課題であるSDGs(持続可能な開発目標)について、「音楽科としてできることは何か」を踏まえ、歌唱教材の歌詞や5年生の口絵には、SDGsにつながる視点を提示し、子どもたちの考えるきっかけとなるようにしました。

地球に関わる内容につながる

かえ  
あなたに生まれてあなたに還る  
美しい約束を守りたい (歌詞より抜粋)

5年生p.70・71の歌唱教材「地球へ」には、「地球に守られて私たちの命がある」というメッセージが込められています。このメッセージは、SDGsの目標である「12 つくる責任 つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」などにつながります。

自然との共生を願った本田美奈子さんの散文「地球へ」からメッセージを受け取った、半崎美子さんによる書き下ろし



半崎美子さん

SDGsにつながる歌詞

「地球へ」だけではなく、各学年にわたって掲載している歌唱教材にもSDGsにつながる側面をもつ歌詞を採用しています。

### 道徳教育や人権教育に対する配慮

互いの人権を尊重し合うこと、つまり「自分の大切さとともにほかの人の大切さを認めること」は、人権教育の理念でもあります。教科書で取り上げている楽曲の歌詞の内容や写真については、道徳教育や人権教育の観点に立って十分に吟味して選んでいます。子どもたちが自分自身のよさや可能性を認識して個性を生かしながら、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働していくことができるように配慮しました。

国際理解、国際親善

世界の国々の音楽

バグパイプの演奏 (イギリス)

ガムラン (インドネシア)

ほか、3つの国や地域の音楽を掲載

6年 p.48・49

家族愛、家庭生活の充実

お年よりにあそびかたをおそわっているようす

おうちの人やちいきの人にわらべうたをおそわってもいいね。

2年 p.58

礼儀／相互理解、寛容

れい \ おはよう / \ ありがとう / \ さようなら /

右の日本語のあいさつのことばを手話であらわしてみよう。

2年 p.7

「友情、信頼」や「自然愛護」の観点で取り上げることができる歌唱教材の例

「Believe」をつくった杉本竜一さんからのメッセージ

「信じることの大切さ」をこの曲にたくしました。人間一人一人が、ほんのちよとした思いやりを他人や自然に対してもつだけで、世の中が明るくなるのではないかと、わたしは考えています。それは、おおげさな行動をとるということではなく、おたがいに道をゆずり合うとか、こまったときに助け合うというような身近なことです。

みなさんが歌詞の内容をよく理解して、心をつなげて歌えば、きっとすてきなハーモニーになるでしょう。

杉本竜一

3年 p.66 「帰り道」

4年 p.8 「小さな世界」

5年 p.8 「Believe」

6年 p.50 「きっと届ける」

5年 p.9 ほか

誰もが音楽を楽しめるように

5年生p.2・3の口絵の内容は、SDGsの目標である「4 質の高い教育をみんなに」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10 人や国の不平等をなくそう」につながります。最先端のデジタルなテクノロジーの力によって、時間や場所の違い、一人一人の違いを超えて音楽を楽しむことができます。

客席からは見ることができない内容を収録した映像の音楽祭

指一本で弾くことが可能な特別なピアノを開発

音楽と社会をつなぐテクノロジー

夢をかなえるピアノ

音楽のいろいろな楽しみ方

分身ロボットを通じて音楽を鑑賞

分身ロボットがつなぐ社会

# 11 「歌いつごう 日本の歌」と「英語の歌」

大切な日本の歌を次の世代へ

子どもたちの発達段階に応じて、全学年に「歌いつごう 日本の歌」のコーナーを設けました。季節ごとの行事などで扱える歌、動物や自然に優しいまなざしを向ける心を育てる歌、日本語の美しさに触れられる歌などを取り上げています。



4年 p.70・71

- 各学年で取り上げられている歌
- 1年 たなばたさま／おしょうがつ／うれしいひなまつり
  - 2年 タ日／とんぼのめがね／シャボン玉
  - 3年 ゆりかごの歌／七つの子／どこかで春が
  - 4年 みかんの花さくおか／せいらべ／みどりのそよ風
  - 5年 ちいさい秋みつけた／海（♪松原速く〜）
  - 6年 夏は来ぬ／浜千鳥

外国語活動との連携

3年生から始まる外国語活動の学習をより豊かに展開できるようにするために、国際理解教育の充実という観点から「英語の歌」を掲載しています。英語に初めて触れる子どもたちへの負担にも配慮して、体の部分や色の名前が含まれた平易な英語歌詞の歌を選曲しています。



3年 p.77

- 各学年の英語の歌
- 3年 p.77 「Head, Shoulders, Knees And Toes」
  - 4年 p.79 「Sing a rainbow」
  - 5年 p.36 「Michael, row the boat ashore」
  - 6年 p.64 「Edelweiss」

# 12 「鑑賞資料」

6年生の子どもたちに多様な世界に触れてほしいという願いを込めて、「いろいろな音楽をきいてみよう」「日本の古典芸能」というページを設けました。

音楽の世界を広げる

「いろいろな音楽をきいてみよう」では、楽器や演奏形態、ジャンルの異なるさまざまな音楽を掲載しています。各題材で扱う教材では、「目的をもって聴き深めること」を中心に学習しますが、ここでは、「幅広くいろいろな音楽に出会うこと」を意図しています。



6年 p.76・77

子どもたちの興味・関心を引き出し、中学校、さらに生涯学習へとつながるように、さまざまな音楽を聴きます。

古典芸能に親しむ

「日本の古典芸能」では、我が国に伝わる伝統芸能の中から、雅楽、能楽（能・狂言）、歌舞伎、文楽（人形浄瑠璃）、組踊を取り上げています。これらは中学校の音楽で本格的に学習しますが、小学校では他教科との関連を図りながら、各芸能の導入として紹介しています。



6年 p.80・81

国語科との関連では、能や狂言、歌舞伎などを取り上げる機会と連携できるように、社会科との関連では、年表を掲載し、各芸能が成立した時代や文化的・歴史的背景を見渡せるようにしています。

# 13 全ての人にとって使いやすい教科書を目指して

## 1 ユニバーサルデザイン(UD)

色覚特性をはじめとして、さまざまな状態にある子どもたちが、等しく学習を進めることができるような教科書を目指して、編集や紙面づくりに取り組んでいます。

**特別支援教育の視点に立った配慮**

特別支援教育に関する校閲

帝京平成大学教授  
田中良広 先生

専門家の方々の校閲や助言を踏まえながら、学習を進めるうえで大切な文章や楽譜などの情報にしっかりと注目することができるように工夫しています。例えば、視覚的な情報を一度にたくさん処理することが困難な子どもたちへの配慮として、イラストの色調を工夫したり、白を基調とするすっきりとしたデザインを採用したりしています。

歌詞や文章を写真中に入れるときには、無地の部分に配置したり背景を白くしたりすることで、読みやすさを確保しています。



3年 p.40・41

縦書き歌詞が見やすくなるように、写真の構図に配慮しています。

**UDフォントを全編に使用**



UDフォントを全体の9割以上に使用しています。タイトルや文章だけでなく、楽譜中の歌詞にも使用することで、可読性、可視性を高めました。

### デジタル教科書における工夫

学習者用デジタル教科書には、特別な配慮を必要とする子どもたちの学習上の困難を低減するために、読み上げ機能や白黒反転表示機能、総ルビ機能が付いています(本書 p.43)。

**さまざまな色覚特性をもつ子どもたちへの配慮**

先天色覚異常(いわゆる色盲・色弱)をもつ方々の助言を受けながら編集作業を進め、色覚特性の違いが学習内容の理解に影響を与えないよう配慮しました。全ての子どもたちにとって使いやすく学びやすい教材となるよう、また、誰もが違和感を抱かない色彩になるよう、紙面デザインには繊細な工夫を施しています。

色覚問題研究グループぱすてる

**☑ 囲みの色と形を変えて区別した例**

1年「あーいあーい」では、「呼びかけて歌う」パートと、「それにこたえて歌う」パートの囲みを、色の違いに加えて、長方形と、角が丸い長方形にして使い分けることで、どちらのパートなのかの判別がしやすくなるように配慮しています。

呼びかけて歌う(長方形)  
それにこたえて歌う(角が丸い長方形)

おさるさんだよ  
あーいあーい  
あーいあーい

縦書き 歌詞の一部  
楽譜の一部  
あーい あーい あーい あーい

1年 p.70

**☑ 色が重なる部分に境界線を用いた例**

げん糸(弦) いそ磯  
げん糸(弦) いそ磯

4年 p.58

## 2 用紙・印刷・製本の工夫

子どもたちに安心して教科書を手にもらえるように、以下のような工夫をしています。また、環境へ悪影響を与える薬品を使わない、製造に関わるリサイクル率を高い水準で維持するなど、環境にも配慮しながら製作しています。

- 用紙は軽さを追求しつつ破れにくいものになっています。
- また、白さや光沢感を調整し、子どもたちの目への負担軽減にも配慮しています。
- 印刷は発色がよく鮮明で、再生可能な植物の油を素材としたインクを使用しています。
- 製本はページどうしを接着した丈夫で長持ちする様式にしています。
- 表紙は優れた抗菌作用のある加工方式を施しています。



# 14 指導書・デジタル教科書等のご案内

## 教師用指導書

指導書セットには、授業をサポートする次の7つのアイテムが含まれています。

- 1 実践編
- 4 指導者用デジタル教科書(教材)
- 6 指導用CD
- 2 研究編
- 5 音楽授業支援DVD
- 7 鑑賞用CD
- 3 伴奏編

1

実践編

日々の授業の内容を押さえる1冊

2

授業の展開がイメージできるように、  
学習活動の流れを掲載します。

3

「Aと判断する児童の状況の例」も  
示し、より充実した内容にします。

3つの  
特色

1

発問例や  
指導のポイントなど、各教材に  
関する内容を掲載します。

2

研究編

授業の内容をより深く掘り下げる1冊

- 各題材の見通しを立てるための題材のねらいや意図など
- 学習展開の立案に役立つ展開例
- 指導を深める指導資料

3

伴奏編

各教材曲の伴奏譜を掲載

- 簡易伴奏譜と本格伴奏譜の2種類を掲載し、用途に応じて使い分けることができます(一部、本格伴奏譜のみの曲もあります)。
- 必要に応じて、移調楽譜や鑑賞曲の参考楽譜も取り上げています。

※ここに掲載されている紙面や画像は編集集中のサンプルです。文章やデザインなどは変更になる場合があります。

## 4

ICTの特性を生かした授業

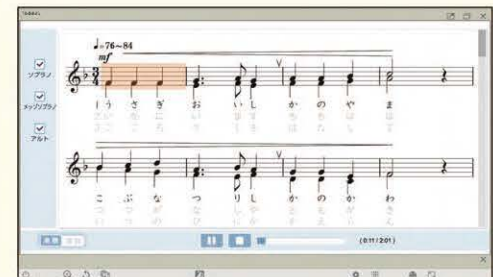
## 指導者用デジタル教科書(教材)

「指導者用デジタル教科書(教材)」は、指導者が大型提示装置に映し出して使用します。教科書の紙面が大きく表示され、「学習者用デジタル教科書」(本書 p.43)と同様に、紙面の拡大や書き込みができるほか、音源や映像などさまざまなコンテンツが収録されており、指導に役立てることができます。

2種類の方法で使用可能予定： ① ローカルインストール ② クラウド配信

### 歌唱

楽譜や縦書き歌詞を大きく映し出すことができます。合唱曲ではパート別の音源を収録しており、再生するパートを選択して模範演奏を聴くことができます。



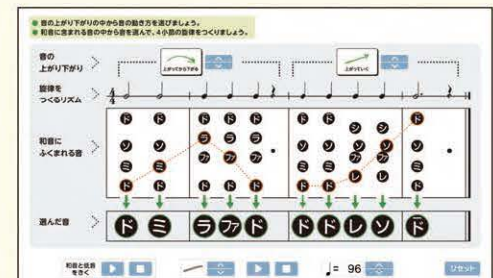
### 器楽

リコーダーの教材では、楽譜と運指を大きく映しながら音と連動して動くコンテンツを収録しています。また、和楽器の教材では、楽器の演奏方法を解説した動画資料などを見ることができます。



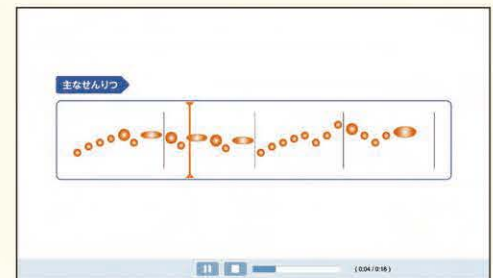
### 音楽づくり

実際の活動をサポートするコンテンツを収録しています。例えば、旋律をつくる学習では、音を選んでつくった旋律を再生することができます。模範として児童に見せることで、学習の見通しをもって活動に取り組むことができます。



### 鑑賞

教科書の譜例を大きく表示したり、それに対応する音源を聴いたりすることができます。その他に、動画資料など、補助的な資料を収録しています。



指導者用デジタル教科書(教材)の体験版はこちら。  
<https://www.kyogei.co.jp/digitaltextbook/2024es/trial>



5

指導内容や指導方法のイメージを伝える動画

音楽授業支援DVD

先生方を、約2～5分ほどの動画でサポートします。事前の準備だけでなく、授業中にもご活用いただける内容です。



プロの演奏家のお手本を見ながら、学ぶことができます。



「音楽づくり」の活動の流れを丁寧に伝えます。



音符の書き方を全員で確認できます。

6

表現教材の模範演奏と伴奏を収録

指導用CD

模範演奏と伴奏のほかにも、

- 低学年を中心に適宜、階名唱を収録しています。
- 中学年以上は、旋律づくりの伴奏例を収録しています。

7

鑑賞教材全曲と参考曲を収録

鑑賞用CD

- 参考曲は、鑑賞教材に関連する曲を選択しています。
- 日本各地に伝わる郷土芸能や民謡の音源も収録しています。

拡大教科書

弱視の子どもたちのために作成される教科書です。音楽を学習するうえで、たいへん重要な要素である「楽譜」の見やすさや使いやすさを第一に考え、楽譜のまとまりを見渡せるように配慮したレイアウトになっています。



※紙面サイズは、29cm×29cmです。

学習者用デジタル教科書

「学習者用デジタル教科書」は、児童一人一人がタブレット端末などの学習者用コンピュータで使用します。ICTの特性を生かして学習に取り組むことができます。

「学習者用デジタル教科書」は、紙の教科書に代えて授業で使用することができます。音源や動画などのコンテンツは含まれておりません。

1 画面の拡大・縮小

教科書の紙面を任意の大きさに拡大して表示することができます。写真や図などの細かな部分を拡大して確認することができます。

3 ほかのデジタル教材やICT機器と一体的に利用

学習者用タブレット端末で使用できる機能(録音・録画など)やほかのデジタル教材、授業支援ソフトと一体的に使用することで、学習を深めることができます。

2 書き込み機能



教科書の紙面にペンやマーカーで簡単に書いたり消したりできるので、試行錯誤につながります。また、書き込みにより自分の考えを可視化して相手に示しながら説明したり、ほかの児童と考えを共有することで意見をまとめたりすることができます。

4 ムーブの部屋にワンクリックでアクセス可能

学習者用デジタル教科書では、紙面上の二次元コードを押下することで、ムーブの部屋(本書 p.18)にアクセスすることができます。

下記の機能により、特別な配慮を必要とする児童の学習上の困難を低減することができます。

5

読み上げ機能

教科書の紙面を機械音声で読み上げることで、教科書の内容を認識・理解しやすくなります。

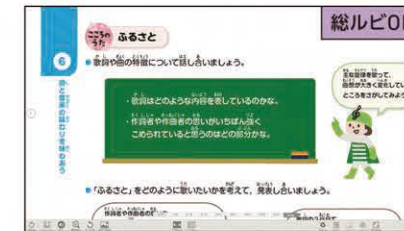
6

白黒反転表示機能

教科書の紙面の背景色や文字色を変更・反転して表示することで、一人一人の状況に応じて、教科書の内容を理解しやすくなります。

7

総ルビ機能



教科書の全ての漢字にルビ(ふりがな)を振ることができ、漢字が読めないことによる学習のつまずきを避け、児童の学習意欲を支えることができます。

学習者用デジタル教科書の体験版はこちら。  
<https://www.kyogei.co.jp/digitaltextbook/2024es/trial>



## 検討の観点別に見た特色

### 教育基本法との関連

観点	教科書の特色	具体例の参照ページ
第一号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽科の学習を通して、幅広い知識と教養を身に付けられるように、児童に身近なテーマで、音楽にまつわる特集やコラムが設けられている。</li> <li>歌詞の内容に配慮した歌唱教材やいろいろな編成の器楽教材、自信をもってつくれる音楽づくり教材、多種多様な鑑賞教材が選ばれ、豊かな情操と道徳心を培えるように配慮されている。</li> </ul>	3年 p.2・3 4年 p.2・3 5年 p.2・3 6年 p.2・3、24・25、43 各学年の歌唱教材 各学年の器楽教材 各学年の音楽づくり教材 各学年の鑑賞教材
第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的な学習を通して、児童が自ら気付いた音楽の価値や、友達の見つけた音楽のよさを尊重し合えるように、教材の提示方法や活動の難易度について配慮されている。</li> <li>気付いたこと、理解したことを生かして音楽活動が進められるように教材間の関係性が高められ、児童の創造性を培えるように配慮されている。</li> <li>郷土の音楽を伝承することの大切さを伝えるコラムや写真、職業として音楽活動をしていることが分かるオーケストラの写真などが掲載され、音楽と生活、音楽と職業との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるように配慮されている。</li> </ul>	キャラクターの吹き出しなどの情報 全学年を通じた題材構成  郷土の音楽： 3年 p.60～63 4年 p.26～29 5年 p.58～61 オーケストラの写真： 3年 p.53～55 4年 p.54・55 5年 p.20～23、26・27 6年 p.16・17、78
第三号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱や合奏、音楽づくりにおいて、ペアやグループで学習を進める際に、自分の役割の自覚やそれを果たす責任感を養ったり、友達と協力しながら音楽をつくり上げる中で、他者を尊敬しつつ、協力する態度を養ったりすることができるように配慮されている。</li> <li>音や音楽を通して社会とのつながりを感じたり、音楽活動が社会に果たす役割を考えたりする活動を通して、音楽文化の発展に寄与する態度を養えるように配慮されている。</li> <li>地域に伝わる芸能や文化などを受け継いでいる同世代の児童の写真が紹介されており、地域社会の絆を大切に、社会の形成に参画する素地が育まれるように配慮されている。</li> </ul>	5年 p.36・37 6年 p.18～21 各学年の音楽づくり教材 ほか  3年 p.63 4年 p.28・29 5年 p.2・3、60・61 6年 p.42・43 各学年裏表紙
第四号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然愛護や、友人を大切にすることを歌の歌詞をもつ歌が取り上げられており、生命を尊ぶ心情を養えるように配慮されている。</li> <li>自然を守ることを大切にする活動を通して、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>	3年 p.66・67、78 5年 p.70・71 6年 p.60・61 ほか 1年 p.30・31 3年 p.11～13、15 ほか 4年 p.10・11、44・45 5年 p.53 6年 p.12・13、45
第五号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国に古くから伝わる習慣や文化を紹介するコラムが設けられたり、和楽器の演奏や鑑賞にあたり、演奏家からのメッセージが紹介されたりするなど、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国を愛する態度を養えるように工夫されている。</li> <li>お囃子や民謡が児童の発達段階に合わせて教材化されており、実際にまねする体験的な活動を通して、郷土の音楽に親しみ、愛着をもてるように工夫されている。</li> <li>地域に伝わる芸能や文化などを受け継いでいる同世代の児童の写真が紹介されており、児童が実感をもって伝統や文化を大切にすることを育てられるように配慮されている。</li> <li>自国だけでなく他国の国歌も尊重することの大切さに気付けるよう、国歌「君が代」にコラムが付されており、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるように配慮されている。</li> </ul>	3年 p.15、45 5年 p.14 4年 p.60 5年 p.55  3年 p.60～62 4年 p.26・27 各学年裏表紙  低学年 p.82・83 中・高学年 p.86・87

第2条との関連

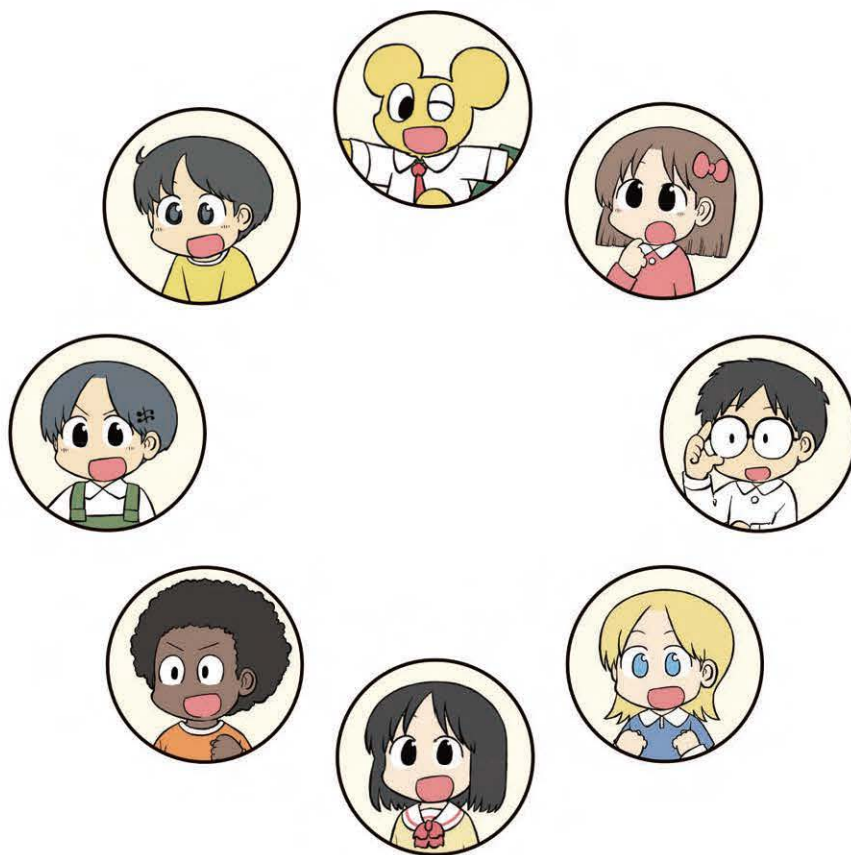
### 学習指導要領との関連

観点	教科書の特色	具体例の参照ページ	
範囲	取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によって異なるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて精選された題材と教材によって、必要な範囲の内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。</li> </ul>	各学年目次及び各ページ
目標	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成できるように配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽活動を通して、無理なく音楽を形づくっている要素を捉えたり、それを生かして表現や鑑賞の活動が進められるように、題材は系統的に構成され、学習のねらいは児童に分かりやすく示されており、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自分の生活をつなげられるように、適切に配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ
	「知識及び技能」の習得に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりについての気付きや理解を促す内容の吹き出しが適切に配置され、児童にとって学習目標や学習活動との結び付きが分かりやすいものとなっている。</li> <li>児童が自身の表現に対してもった思いや意図を実現するために役立つ写真やコラムが、発達段階や学習の系統性を踏まえながら、適切に示されている。</li> </ul>	各学年各ページ
	「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の作品例やワークシート例のほか、グループ活動時の会話を想定した吹き出しが例示されるなど、児童が表現に対して思いや意図をもったり、音楽や演奏のよさを味わいながら聴いたりするために必要な情報が適切に示されている。</li> </ul>	3年 p.34・35、58・59 4年 p.48～51 5年 p.30～33 6年 p.36・37 ほか
	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の学習の見通しをもつことができる「学習マップ」のページや、1年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童が主体的に学習に臨むことができるよう工夫されている。</li> <li>各題材の最初のページに題材のねらいを、最後のページに学習を振り返るまとめを掲載し、児童がこの題材で「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認し、これからの学習につなげられるよう配慮されている。</li> <li>児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にあるさまざまな音や音楽への関心を促す教材や特集が配置されている。</li> </ul>	低学年 p.2・3、80・81 中・高学年 p.4・5、82・83
(共通事項)	(共通事項)は、学習指導を進めるうえで適切に扱われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材で学習する(共通事項)に示された音楽を形づくっている要素が各教材ページ端に示されており、さらに、児童が理解しやすい言葉で学習のねらいや活動文、吹き出しの中などで繰り返し記されるなど、適切に扱われている。</li> </ul>	各学年各ページ
指導上の配慮や工夫	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、配慮や取り組みはなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自ら進んで学習活動に取り組むことができるように、学習の目標や具体的な活動例、ヒント、資料などが豊富に用意されており、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習が進められるように配慮されている。</li> <li>児童自らが学習の目当てをつかめるように、活動文に「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」のマークを示し、「思考力、判断力、表現力等」や「知識」「技能」に関わる内容を意識しながら学習を進められるように工夫されている。</li> <li>キャラクターの吹き出しなどにより、児童が意見を交流しやすいようなヒントが示されているほか、専門家からのメッセージを読むことによって、自分の考えをより広げたり深めたりすることができるような取り組みがなされている。</li> <li>巻末には、鑑賞資料やリコーダーの運指表、楽典事項、振り返りのページがまとめて設けられており、児童が興味・関心を持ちながら主体的に学習を進めていくことができるように配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ  各学年各ページ  各学年各ページ  各学年巻末
	児童が実感をもって学習を進めるための体験活動や体を動かす活動は、適切に設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに思考・判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるように、表現教材及び鑑賞教材においては、譜例(絵譜)や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実が図られるように工夫されている。</li> </ul>	1年 p.50・51 2年 p.42・43 3年 p.37、39 4年 p.16・17、33 5年 p.19～21、28・29 6年 p.16・17、34・35 ほか
	郷土の音楽を学習する際に、児童が親しみや実感をもって音楽に接することができるように、口唱歌の体験や民謡の歌い方をまねする体験活動が示されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の音楽を学習する際に、児童が親しみや実感をもって音楽に接することができるように、口唱歌の体験や民謡の歌い方をまねする体験活動が示されている。</li> <li>児童の音程感覚を養うために、挿絵の「ドレミ風船」を指さしながら歌い、音の高低の違いを手の動きによって感じ取る活動を設定するなど、歌唱の技能の育成につながる指導上の工夫が取り入れられている。</li> <li>和音の響きの違いを体の動きを使って感じ取ることができる活動例が示され、実感をもって学習を進められるように工夫されている。</li> </ul>	3年 p.60～62 4年 p.26・27 1年 p.43 2年 p.21 ほか  5年 p.35

編集上の工夫や特色			
	観点	教科書の特徴	具体例の参照ページ
構成・配列・分量	題材や教材は系統的・発展的に組織されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 題材は、学習指導要領に示されている低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて構成されており、各学年、全学年を通して系統的・発展的に組織されている。</li> <li>● リズム唱、階名唱、合唱などの歌唱の技能や、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの演奏の技能については、発達段階を考慮した無理のないステップが踏まれている。</li> </ul>	各学年各ページ リズム唱： 1年p.18～29、2年p.32～37 階名唱： 低・中学年 （「ドレミ風船」の扱い） 鍵盤ハーモニカ： 1年p.34～43、2年p.22～27 リコーダー： 3年p.20～29、49～51 ほか
	教材の配列は、単なる羅列ではなく、教材性に即して適切であるか。	● 系統性及び発展性をもって組織化された題材を軸に、表現と鑑賞の教材が関連、対照、対比されながら組み合わせられており、教材性を生かした多様な効果的な学習が展開できるように配列されている。	各学年各ページ
	基礎的・基本的な学力の定着について適切な配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相互に関連性をもった教材の配列により、積み重ねの学習や繰り返しの学習を行いやすく、音楽活動の基礎的な能力の定着、伸長が着実に図れるように配慮されている。</li> <li>● その題材で学んだことを振り返ることができるまとめを掲載し、児童が「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認できるよう工夫されている。</li> <li>● 各学年で学んだ重要な学習事項を、児童が自分で振り返り確認することのできる「ふり返りのページ」が設けられており、基礎的・基本的な学力の定着を図れるように配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ 各学年各題材の最後のページ 低学年 p.80・81 中・高学年 p.82・83
	各学校や児童の実態に応じた学習指導計画を立てるための配慮はなされているか。	● 全学年の系統は題材と教材の扱いによって維持され、題材ごとに教材、活動、程度などが柔軟に選択できるよう弾力的に組織されており、学習指導計画の作成に当たり、各学校や児童の実態に対応できるよう適切に配慮されている。	各学年各ページ
	スタートカリキュラムへの配慮はなされているか。	● 1年生の導入ページにおいて、聴こえてくる音楽に合わせて体を動かしたり知っている歌と一緒に探して教え合ったり、ペアやグループで体を動かしながら歌ったりする活動が取り入れられており、無理なく段階を踏んで音楽的な学習へ移行できるように配慮されている。	1年 p.6～21
	教材や文章の分量、バランス、内容は適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 題材、教材の分量及びバランスは、各学年の授業時数に配慮したものとなっている。</li> <li>● 題材のねらいに即して、学習内容や関連教材などが有機的に組織されており、教材や学習活動の分量を弾力的に増減できるように配慮されている。</li> <li>● 文章は児童に分かりやすく丁寧に示されており、文章量も適切なものとなっている。</li> </ul>	各学年各ページ
	教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 明確な学習の観点のもと、幅広く学習活動を行うことができるように多様な教材が用意されており、児童が意欲的に取り組むことができるように配慮されている。</li> <li>● 児童の心情に即した新鮮でアイデアに満ちた教材が扱われており、興味・関心をもって学習を進めることができるように配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ 各学年各ページ
教材の内容や程度	教材や学習活動の程度は、児童の心身の発達段階や能力の実態に適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽曲や歌詞の内容、音域などについても児童の心身の発達段階に応じて十分に考慮されている。</li> <li>● 柔軟で弾力的な学習活動を行えるように程度の差を考慮した教材が扱われており、各学校や児童の実態に合わせて活動を選択することができるように配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ 4年 p.20・21 5年 p.16 6年 p.18～21 ほか
	「音楽づくり」の学習活動について適切な配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習のねらいや活動の手立てが明確に示されており、児童が主体的に「音楽づくり」の学習活動に取り組むことができるように配慮されている。</li> <li>● 「音楽づくり」の教材が題材内で有機的に取り上げられており、他の音楽活動と関連させながら学習を進め、学びや、思いや意図を相互に生かせるように配慮されている。</li> <li>● 「音楽づくり」の教材については、各学年の発達段階を考慮した無理のないステップが踏まれており、学年が上がるにつれて、着実に学力の積み重ねが行われるように配慮されている。</li> </ul>	2年 p.28・29 3年 p.34・35 ほか 1年 p.48・49 4年 p.62・63 5年 p.38・39 ほか 1年 p.48→2年 p.60→ 3年 p.64→4年 p.62→ 5年 p.38→6年 p.30

	観点	教科書の特徴	具体例の参照ページ
教材の内容や程度	我が国の伝統や文化に関する教材の扱いにおいては、児童が我が国や郷土の音楽に愛着をもてるよう配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手遊び歌や縄跳び歌などのわらべうた、地域に伝わる伝統芸能など、児童の生活に即した教材が学年段階に応じて、幅広く用意されている。</li> <li>● 鑑賞教材として取り上げた伝統芸能や民謡などには、児童に親しみやすい切り口で学習のねらいや活動が設定されており、実際に音楽の一部を体験する活動を加えるなど、鑑賞学習のポイントを押さえつつ、音楽的側面から親しめるように配慮されている。</li> </ul>	1年 p.66～69 2年 p.58・59 3年 p.60～63 4年 p.26～29 5年 p.58～61
	童謡や唱歌などを含めた我が国の音楽文化に対する配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共通教材については「こころのうた」と銘打ち、我が国の文化や自然環境の保護などの視点からコラムや写真などが用意されており、児童が知的好奇心や感受性を働かせながら歌うことができるように配慮されている。</li> <li>● 各学年に「歌いつごう 日本の歌」として童謡や唱歌などが精選して取り上げられており、世代を超えて日本の音楽文化を共有することができるように配慮されている。</li> </ul>	各学年の共通教材 1年p.78・79、2年p.70・71 3年p.70・71、4年p.70・71 5年p.66・67、6年p.56・57
	鑑賞曲の選択及び扱いは適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 題材のねらいに即した選曲により、学習内容が明確になっているとともに、授業時間内で繰り返し鑑賞することができるように曲の長さについても配慮されている。</li> <li>● 題材のねらいに含まれる音楽を形づくっている要素を橋渡しとして、歌唱や器楽などの表現活動と関連付けられるように鑑賞学習のねらいが設定されており、鑑賞と表現の学習が密接に関連するように工夫されている。</li> </ul>	各学年の鑑賞教材 3年 p.46～49 4年 p.38～40 5年 p.18～21 ほか
	他教科との関連について適切な配慮はなされているか。	● 他教科との関連を図ることで、児童の興味・関心・意欲を高めて学習を一層深めることができるよう、調べ学習や英語の歌、日本の古典芸能などが適切に配置されている。	4年 p.28・29 5年 p.36・37 6年 p.80・81 ほか
	プログラミング的思考の育成に対して配慮はなされているか。	● 楽器の音色やリズムパターンの組み合わせなどに見通しをもち、試行錯誤を繰り返しながら音楽をつくる教材が設けられ、児童が論理的に考える力を身に付けられるように配慮されている。	3年 p.58・59 4年 p.24・25、48～51 5年 p.30～33 ほか
	国際理解、情報、人権教育などに配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 諸外国の音楽文化に対する理解を深められるよう、踊りの音楽や合奏の音楽を比較鑑賞の形で掲載し、それぞれの音楽のよさや違いを捉えやすくなるよう配慮されている。</li> <li>● 国歌「君が代」を大切に歌うことと他国の国歌を尊重する態度を養う観点でコラムを設け、国際理解につながるよう配慮されている。</li> <li>● 音楽に関する知的財産権についての特集「著作権について知ろう」を設け、作品（著作物）や著作者を尊重する気持ちを育めるよう配慮されている。</li> <li>● 作曲家からのメッセージが紹介されたり、音楽をつくった人や演奏する人の工夫を考える活動が取り上げられたりするなど、音楽を大切に作る態度が養えるように配慮されている。</li> <li>● 友達との触れ合いや、自然や動植物を大切に作る歌詞を取り上げるなど、道徳との関連にも行き届くよう配慮されている。</li> <li>● 震災を体験した方によるメッセージや、復興がきっかけで歌が生まれたことを伝えるコラムが設けられ、「音楽に何ができるか」という観点から児童が考えることができるように配慮されている。</li> </ul>	2年 p.12・13 6年 p.48・49 低学年 p.82・83 中・高学年 p.86・87 6年 p.24・25 5年 p.9、47、55 3年 p.66・67、78 5年 p.70・71 ほか 5年 p.22 6年 p.43
	説明文やイラストなどは、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽譜や文字の大きさなどは、児童の発達段階に応じて設定されており、見やすさや読みやすさについても十分に配慮されている。</li> <li>● イラストや写真などの取り上げ方もアイデアにあふれ、音楽的感覚の育成や知的理解、学習活動の一助となるように、児童の感性に即して適切に扱われている。</li> </ul>	各学年各ページ 1年 p.32・33 2年 p.44・45 3年 p.24、49 5年 p.47・48 ほか
表記・体裁・装丁	ユニバーサルデザインへの配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書紙面全体として、区別しやすい配色を用いながら、学習上の必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるように配慮されている。</li> <li>● 文章や歌詞、楽譜などの近くにイラストや写真が配置される場合には、学習上必要な情報に確実に注目することができるよう、シンプルなデザインが採用されており、学習障害のある児童への配慮が行き届いている。</li> </ul>	各学年各ページ
	全体の体裁は、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紙面の大きさは適切で、レイアウトも見やすく統一感がある。</li> <li>● 題材ごとに通し番号が振られ、インデックス（小口見出し）によって題材のまとまりが分かりやすく示されるなど、見通しをもって学習できるように工夫されている。</li> </ul>	各学年目次及び各ページ
	印刷・製本などは適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽譜、文字、イラスト、写真など、印刷の発色もよく、鮮明なものになっている。</li> <li>● 製本はページどうしを接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。</li> <li>● 再生紙や再生可能な植物油インキを使用するなど、環境にも配慮されている。</li> </ul>	各学年各ページ





**著作者**

**〔監修〕**

**小原光一**

元横浜国立大学教授

**飯沼信義**

桐朋学園大学名誉教授

**浦田健次郎**

東京芸術大学名誉教授

**〔執筆・編集〕**

**石井ゆきこ**

東京都港区立芝小学校主任教諭

**石上則子**

元東京学芸大学准教授

**岩井智宏**

桐蔭学園小学校教諭

**江田 司**

名古屋学院大学教授

**後藤朋子**

東京都日野市立平山小学校指導教諭

**小梨貴弘**

埼玉県戸田市立戸東小学校教諭

**佐井孝彰**

作曲家

**佐野 靖**

東京芸術大学副学長

**鹿谷美緒子**

作曲家

**杉本竜一**

作曲家

**副島和久**

佐賀県佐賀市立金立小学校校長

**富澤 裕**

合唱指揮者

**長谷部匡俊**

作曲家

**藤原道山**

尺八演奏家

**三宅悠太**

作曲家

**館 雅之**

神奈川県横浜市立太尾小学校校長

**吉澤 実**

リコーダー奏者

**教育芸術社編集部**

**表紙挿画**

あらみけいいち

**表紙装丁・本文デザイン**

グルーヴィジョンズ



**株式会社  
教育芸術社**

〒171-0051

東京都豊島区長崎 1-12-14

TEL : 03-3957-1175 (代表)

<https://www.kyogei.co.jp/>

